

事後評価結果（平成28年度）

担当課：四国地方整備局 道路部 道路計画課
 担当課長名：藤波 武志

事業名	一般国道55号 <small>ひわき</small> 日和佐道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：徳島県阿南市福井町小野 至：徳島県海部郡美波町北河内	延長	9.3km		

事業概要
 一般国道55号は、徳島市を起点に室戸阿南海岸国定公園沿いを経て、高知市に至る延長約228kmの幹線道路であり、徳島県、高知県の産業経済を支える大動脈であるとともに、通勤等、日常生活に欠かせない生活道路としての役割も持つ重要な路線である。
 日和佐道路は、徳島県阿南市福井町小野から海部郡美波町北河内までを結ぶ延長9.3kmの自動車専用道路であり、平成19年度に由岐IC～美波町北河内間（6.2km）が部分共用し、平成23年度に全線開通した。

事業の目的・必要性
 日和佐道路は国道55号の異常気象時における通行規制を解消し、地域の利便性向上や救急医療施設へのアクセス向上などを図り、地域活性化を支援するものである。また、高規格幹線道路網の空白地帯である四国東南地域にとって重要な役割を担う地域高規格道路阿南安芸自動車道の一部で、「四国8の字ネットワーク」を構成する道路であり、交流連携を支援し、高速性、安全性の確保に資するものである。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度 都市計画決定	H7年度 H22年度	用地着手 工事着手	H11年度 H11年度	供用年 (暫定/完成)	(当初) — / H19年度 (実績) — / H23年度	変動	1.3倍
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) — / 440億円 (実質値) — / 433億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) — / 494億円 (実質値) — / 452億円			変動	1.1倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	— / 7,300~7,900台/日	実績 (暫定/完成)	— / 8,300台/日			変動	105~114%
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)		51.6 → 69.0 km/h (供用前年次) H17年度 (供用後年次) H27年度	交通事故減少 (供用前→供用後)	17 → 2 件/年 (供用前年次) H16~H18年 (供用後年次) H24~H26年				
	費用対効果 分析結果 (当初)	B/C	1.8	総費用 (事業費: 462億円 維持管理費: 49億円)	511億円	総便益 (走行時間短縮便益: 758億円 走行経費減少便益: 114億円 交通事故減少便益: 27億円)	899億円	基準年	平成16年
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.2	総費用 (事業費: 707億円 維持管理費: 39億円)	747億円	総便益 (走行時間短縮便益: 735億円 走行経費減少便益: 85億円 交通事故減少便益: 40億円)	860億円	基準年	平成28年	
事業遅延によるコスト増		費用増加額	30億円	便益減少額	25億円				
事業遅延の理由	用地交渉の難航による遅延								

事業の効果等	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ①円滑なモビリティの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の年間時間損失が削減 ・長距離高速バスの利便性や快適性が向上 ・共用空港へのアクセス向上【美波町～徳島阿波おどり空港(107分→96分)】 ②物流効率化の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・国際コンテナ航路発着港湾へのアクセス向上【美波町～徳島小松島港(55分→50分)】 ・農林水産品の流通利便性が向上【阿波尾鶏、伊勢エビ、アワビ】 ③国土・地域ネットワークの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成 ・日常活動圏中心都市へのアクセス向上【美波町～阿南市(46分→41分)】 ・拠点開発プロジェクト、大規模イベントの支援に関する効果【道の駅日和佐、ひわさうみがめトライアスロンなどを支援】 ・IC等から主要な観光地へのアクセス向上による効果【薬王寺、サーフィンスポット、日和佐うみがめ博物館カレッタ】 ④安全で安心できる暮らしの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設へのアクセス向上【美波町から徳島県赤十字病院への所要時間が5分短縮】 ⑤災害への備え <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県の第一次緊急輸送道路に指定 ・事前通行規制区間の代替路を形成 ⑥地球環境の保全 <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量を削減 ⑦生活環境の改善・保全 <ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量を削減 ・SPM排出量を削減 ⑧その他 <ul style="list-style-type: none"> ・美波町への移住促進により、人口が社会増 <p>その他評価すべきと判断した項目</p>
環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>—</p>
事業による	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>—</p>
事業を巡る	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日和佐道路に接続する桑野道路が平成23年度に、福井道路が平成24年度に事業化。 ・四国横断自動車道（鳴門JCT～徳島IC：延長10.9km）が平成26年度に開通。 ・美波町の人口は、開通前の平成17年以降、減少傾向。 ・日和佐道路の利用が想定される通勤・通学流動(H22)は約2,400人/日であり、海部郡（美波町、牟岐町、海陽町）から他市町村への通勤・通学者の7～8割が自家用車を利用。
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<p>日和佐道路の開通により、現道の事前通行規制区間の代替路として、安全・安心な通行の確保、信頼性の高い緊急輸送道路の確保、広域連携の強化や交流の促進による地域の活性化など、事業目的に見合った効果が確認できていることから、今後の事後評価の必要性はない。</p> <p>また、想定された効果が発揮されており、改善措置の必要性はない。</p>
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<p>現時点では、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性は見られない。</p>
特記事項	<p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。